

韓国

マクロ経済動向

9月に発表された2007年第2四半期の実質GDP成長率(改定値)は、季節調整値で前期比1.8%増(年率7.4%)となり、前期の同0.9%を大きく上回った。これは市場予想などを上回る高い数字といえる。また7月に発表された一次速報値から0.1ポイントの上方改定となった。需要項目別に見ると最終消費支出は同1.1%、固定資本形成は同0.8%で、その内の機械設備投資が同3.4%と比較的高い伸びを持続した。一方、輸出はウォン高の進行にもかかわらず、同4.6%と前期を上回った。

直近の経済指標を見ると、産業生産指数は季節調整値で7月は前月比2.1%増となっている。失業率は季節調整値で7月に3.4%となっている。

為替レートは月中平均で、3月の1ドル=943ウォンから、7月には同918ウォンまでウォン高が進行している。しかしこうした為替の状況にも関わらず、輸出は概ね堅調な伸びを記録している。

大統領選に向けた与野党の動き

前号で紹介した、12月の大統領選挙に向けた政界の動きは、さらに激しさを増してきている。

まず盧武鉉政権の支持率低迷の中、優位に立っている保守野党・ハンナラ党陣営であるが、8月19日に行われた予備選挙の結果、李明博前ソウル市長が故朴正熙元大統領の長女の朴槿恵氏をおさえ、大統領候補に選出された。これは党員投票では優位に立った朴氏を、李氏が世論調査による党外の支持で、僅差で振り切ったものである。過去の韓国の大統領選では、党内予備選挙で敗れた候補者が結果を不服として党を割るという行動が多く見られた。しかし今回、朴氏は選挙直後から保守側の政権奪回に向けて、李氏に対する協力を表明し、世論調査の結果でも、朴氏の支持率がほぼ李氏の支持率に上乗せされる結果となっており、ハンナラ党の優位は持続している。

一方、大統領に近い与党系陣営であるが、統一候補選出に向け、混迷が続いている。既報のように6月には与党ウ

リ党から集団脱党したグループと、金大中前大統領の流れを汲む民主党が合流し、「中道統合民主党」が結成された。8月にはさらに、ウリ党に残っていた勢力がこれに合流し、「大統合民主新党(民主新党)」が結成された。この結果ウリ党は消滅し、新党は国会の議席数でハンナラ党を上回り、与党勢力は第一党の座を回復した。しかしこうした動きには当然、「単なる看板の架け替えに過ぎない」という批判が出ている。

新党は9月3、4日に一般有権者と党員を対象とする第一次予備選を行い、出馬表明をした9人の中から、ハンナラ党から移った孫鶴圭前京畿道知事、鄭東泳元統一相(元ウリ党代表)、盧武鉉政権の前首相の韓明叔氏、同じく元首相の李海瓚氏、盧大統領の側近の柳時敏前保健福祉相の5人を、最終予備選候補者に選定した。同党の予備選は、9月15日の済州道、蔚山市から10月14日のソウルまで各地で行われ、大統領候補が決定される。

しかし8月28日時点での世論調査では、ハンナラ党の李明博氏の支持率が58.4%に対し、与党系では1位の孫氏が6.3%、2位の鄭氏が3.5%にとどまっており、圧倒的な差がついている。また元々保守陣営出身の孫氏や、かつてはウリ党代表を務めながら現在は盧大統領と距離を置く鄭氏と、大統領に近い他の3氏の間には政治的なスタンスに大きな開きがあり、予備選挙後も波乱が予想される。

さらに旧民主党のグループは8月の大統領選に反発しており、民主党を再結成し、新党に対して「民主新党」の略称の使用中止を求める仮処分申請を行い、認められている。民主党は議席数こそ少ないが、金大中前大統領の地盤である全羅道では依然として根強い支持を集めており、こうした分裂は大統領選本選に向けた与党側のマイナス要因といえる。

一方で、ハンナラ党側でも予備選の中で行われた暴露合戦によって、李候補の不明朗な土地取引などのスキャンダルが表面化しており、本選挙まで現在の高支持率が維持できるかどうかは不透明といえる。いずれにせよ、12月に向け激しい駆け引きが予想される。

(ERINA調査研究部研究主任 中島朋義)

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	06年7-9月	10-12月	07年1-3月	4-6月	5月	6月	7月
国内総生産(%)	7.0	3.1	4.6	4.0	5.0	1.2	0.9	0.9	1.8	-	-	-
最終消費支出(%)	7.6	0.3	0.2	3.4	4.5	1.1	1.1	1.3	1.1	-	-	-
固定資本形成(%)	6.6	1.9	1.9	2.3	3.2	2.8	1.2	2.0	0.8	-	-	-
産業生産指数(%)	8.0	5.1	10.4	6.3	10.1	0.5	2.7	0.7	4.4	1.0	1.9	2.1
失業率(%)	3.3	3.6	3.7	3.7	3.5	3.5	3.4	3.2	3.3	3.4	3.3	3.4
貿易収支(百万USDドル)	14,777	21,952	37,569	32,683	29,214	6,228	10,350	6,038	6,970	2,239	3,212	3,127
輸出(百万USDドル)	162,471	193,817	253,845	284,419	325,465	82,713	87,394	84,707	93,016	31,045	32,017	30,358
輸入(百万USDドル)	152,126	178,827	224,463	261,238	309,383	80,216	79,905	82,206	87,698	29,756	28,455	29,245
為替レート(ウォン/USDドル)	1,251	1,192	1,144	1,024	955	955	938	939	929	927	928	918
生産者物価(%)	0.3	2.2	6.1	2.1	2.3	3.1	2.0	1.8	2.6	2.5	2.7	2.4
消費者物価(%)	2.7	3.5	3.6	2.8	2.2	2.5	2.2	2.0	2.4	2.3	2.5	2.5
株価指数(1980.1.4:100)	-	-	896	1,379	1,434	1,371	1,434	1,453	1,744	1,701	1,744	1,933

(注) 国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、産業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、産業生産指数、失業率は季節調整値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、生産者物価は2000年基準、消費者物価は2005年基準

貿易収支はIMF方式、輸出入は通関ベース

(出所) 韓国銀行、統計庁他